

文学部、情報学部（人間・社会情報学科）

問題 I

イギリスは、ドイツ、オーストリア、イタリアによる三国同盟や露仏同盟と対立する一方で、強大な海軍力を背景に他国と同盟しない「光栄ある孤立」の立場をとった。しかしイギリスは、イランなどのユーラシア各地で南下するロシアとの対立や南アフリカ戦争の長期化により軍事的負担が増加したため、朝鮮半島と満洲地方をめぐるロシアと対立していた日本と日英同盟を結び、「光栄ある孤立」の立場を放棄した。イギリスから見た日露戦争は、日本を支援してロシアの南下を防ぐための英露対立の代理戦争であった。日露戦争の開戦後、イギリスは戦争に巻き込まれたいくなかったフランスと英仏協商を結んだ。ロシアが日露戦争で敗北して東アジアでの南下を放棄すると英露協商が結ばれ、露仏同盟、英仏協商を合わせた三国協商が成立して三国同盟と対立した。（347字）

文学部、情報学部（人間・社会情報学科）

問題Ⅱ

問 1

アケメネス朝ペルシアの侵攻で始まったペルシア戦争では、マラトンの戦いやサラミスの海戦での勝利の結果、ギリシア側が最終的に勝利した。ペルシア戦争を通じてポリス側の主力となったアテネの政治的優位が明らかになるとともに、デロス同盟を組織して諸ポリスを従えた。

問 2

アテネ側につくことに抵抗したメロス島は制圧され、過酷な支配を受けた。その後行われたシチリア島遠征でアテネ側は甚大な被害を被った。このことはペロポネソス戦争でアテネの敗北の契機となり、覇権を失ったアテネは過酷な支配を受けることが想像された。

問 3

トゥキュディデスは史料批判に基づく史実の探究・説明を行い、その姿勢は近代以降の科学的な歴史叙述の規範となった。覇権を握り敗者に過酷な支配をしたアテネも、ペロポネソス戦争で敗北すると覇権を失った。同様に、覇権国家に対抗する新興国家の登場は、新たな戦争を現代に至るまで生み続けている。

文学部、情報学部（人間・社会情報学科）

問題Ⅲ

問 1

ア) 冊封

イ) 中国王朝は冊封によって華夷思想にもとづく国際秩序を構築し、直接支配できない異民族政権や周辺諸国を自国の影響下に取り込むことで自らの威信を内外に誇示した。

問 2

ア) 外戚

イ) 皇帝が幼少や病弱な際に主にその母が代理に実権を握り、実家である外戚を重用した。また、君主の親族として、官僚組織を介さず直接国政に関与することもあった。

ウ) 王莽      エ) 新

問 3

ア) 国家が耕作者の集団を置いて官有地を耕作させる兵農一致の制度で、辺境の防衛や食糧自給のために設けられた。魏では財源確保のため内地にも置かれ、税を徴収した。

イ) 異民族政権は漢の使者を軽んじており、前漢の皇帝の使者による和解の試みも果たされていない。こうした異民族政権を屯田によって抑えるには費用がかかると考察できる。

問 4

ア) 武帝      イ) 朝鮮半島      楽浪郡

問 5

前漢は武帝の時代に大規模な遠征で支配領域を広げ、軍事費をまかなうために塩・鉄・酒の専売や均輸・平準による物価統制策を実施した。しかし、武帝の死後は幼帝が続いて皇帝支配が弱まり、財政悪化が深刻化したことで直接支配が困難となり、対外的な消極策が検討された。

文学部、情報学部（人間・社会情報学科）

問題IV

問 1

- a : 乾隆      b : チャクリ  
c : 阮福暎

問 2

- 1 : エーヤワディー      2 : チャオプラヤ  
3 : メコン

問 3

都 : 北京      宮城 : 紫禁城

問 4

上座部仏教

問 5

モン人

問 6

中国の清朝は領土の拡大をすすめ、ビルマなどに侵攻した。中国の干渉や侵攻を防ぐために東南アジア各国は、ベトナムの阮朝に代表されるように清朝の冊封体制下に入り、朝貢しながら相対的な独立の維持をはかった。また、冊封体制下の東南アジアでは中国との交易が活発化して中国商人が来航し、ビルマでは綿花や森林生産物、宝石を買い付け、タイでは米を買い付けた。こうして中国との交易は東南アジア経済の繁栄をもたらした。ベトナムでは、阮福暎が中国人の勢力などに支えられ南北ベトナムを統一した。タイでは、中国との交易が王室財政を支えた。中国人の中には定住するものがあらわれ、政治的・経済的に一定の影響力を及ぼした。